

ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(4)

ネットいじめの加害理由の単純集計

○堀内由樹子¹・鈴木佳苗²・熊崎あゆち¹・樫淵めぐみ²・桂瑠以¹・坂元章¹

(¹お茶の水女子大学・²筑波大学)

キーワード：ネットいじめの加害行動経験・加害理由・高校生

The effects of Internet use among high school students with cyberbullying experiences (4):

Reasons for cyberbullying

Yukiko HORIUCHI¹, Kanae SUZUKI², Ayuchi KUMAZAKI¹, Megumi KASHIBUCHI², Rui KATSURA¹ and Akira SAKAMOTO¹

(¹ Ochanomizu University, ² University of Tsukuba)

Key Words: cyberbullying experiences, reasons for bullying, high school students

目 的

一連発表の(4)では、ネットいじめの加害理由の単純集計の結果を報告する。従来の学校いじめの先行研究では、加害理由として次のようなタイプの理由が取り上げられている(尾木, 1999; 内藤, 2008; 餅川, 2011)。(1)「いじめ快感型」の理由は、「相手を困らせるのがおもしろい」という被害者の苦痛を喜ぶタイプのものである。(2)「ふざけ・遊び型」の理由は、「からかっているつもりだった」というような遊び感覚でいじめに安易に参加するタイプのものである。(3)「ストレス解消型」の理由は、「いらいらしていたから」というようないじめをストレス解消の手段として用いるタイプのものである。(4)「いじめ正当化型」の理由は、「被害者に悪い点があったから」といういじめの原因を被害者に帰属するタイプのものである。(5)「全能感希求型」の理由は、「被害者が自分の言いなりになるのがおもしろいから」という誰かを支配服従させることで自己満足感を得ようとするタイプのものである。(6)「ボス追従型」の理由は、「いじめに参加しなければ自分もいじめられるから」といったいじめの加害者側のいじめ参加への圧力を理由とするものである。本研究では、こうした学校いじめで加害の理由として挙げられるものが、ネットでの加害行動の理由としても挙げられるのかを検討した。

方 法

調査対象 一連発表の(3)の2回目調査対象者607名のうち、加害行動10項目について、「この1か月間に、携帯電話からのネット利用において、同じ学校の人との間にくりかえし意図的に行った経験」が1つの項目でも経験があると回答した高校生186名(男性86名、女性100名)を対象とした。

調査項目 ネットいじめの加害理由13項目について、「まったくあてはまらない」、「少しあてはまる」、「かなりあてはまる」、「非常にあてはまる」の4件法で回答してもらった(各項目内容は表1参照)。

手続き 一連発表の(3)と同様であった。

結 果 と 考 察

ネットいじめの加害理由の割合 ネットいじめの加害理由について、「少しあてはまる」、「かなりあてはまる」、「非常にあてはまる」と回答した割合の全体と男女別の結果を表1に示した。全体では、「からかいがいがあるから(やったらおもしろい、楽しい)」や「相手も楽しそうだったから」というような「ふざけ・遊び型」の理由と、「相手が先から来たから」、「相手に悪いところがあったから」のような「いじめ正当化型」の理由が多く見られた。逆に、「なんとなくやらなければならないような雰囲気になっていたから」や「自分も参加しないと同じようなことをされると思ったから」といった「ボス追従型」の理由や「相手よりも上に立ちたいから」といった「全能感希求型」の理由、「相手が苦しんでいるのがおもしろかったから」といった「いじめ快感型」の理由はあまり見られなかった。また、加害理由の割合に特に有意な性

差は見られなかった。ネットいじめでは、いじめ加害行動時にその場に加害者や被害者、その他のいじめの関係者がいないケースがあり、「ボス追従型」に必要な加害者からの圧力や「いじめ快感型」を強化する即時的な他者からの苦痛反応がない場合が含まれる。そのため、他の理由と比べて割合が低くなっている可能性が考えられる。

悪質なネットいじめ加害行動経験者の加害理由の割合 全体の加害理由の割合と比べると、「ネット上で同じ学校の人に、危ない目にあわせるといった」や「同じ学校の人が傷つくようなことをされているシーンを撮影し、ネット上に掲載した」といった悪質なネットいじめの加害行動経験が1つでもある場合には、「相手よりも上に立ちたかったから」という「全能感希求型」の理由の割合が多かった(43.6%; N=39)。

表1 ネットいじめの加害理由の割合(%)

	全体	男子	女子
相手も楽しそうだったから	50.5	50.0	51.0
仲の良い子がやっていたから	45.2	43.0	47.0
相手によかれと思ってやった	41.9	44.2	40.0
なんとなくイライラしていたから(ストレスがたまっていた)	43.0	39.5	46.0
からかいがいがあるから(やったらおもしろい、楽しい)	52.2	52.3	52.0
相手に悪いところがあったから	50.0	50.0	50.0
相手が先から来たから	50.5	50.0	51.0
自分も参加しないと同じようなことをされると思ったから	17.2	22.1	13.0
なんとなくやらなければならないような雰囲気になっていたから	26.3	30.2	23.0
相手よりも上に立ちたかったから	25.8	30.2	22.0
相手が嫌だから(相手にむかついたから)	48.4	46.5	50.0
相手が苦しんでいるのがおもしろかったから	25.3	31.4	20.0
相手の反応がおもしろかったから	45.7	50.0	42.0

引用文献

- 餅川正雄(2011). 学校いじめ問題に関する研究(III). 広島経済大学研究論集, 34(1), 51-70.
- 内藤朝雄(2008). いじめの社会理論. 柏書房.
- 尾木直樹(1996). いじめっ子—その分析と克服法—. 学陽書房.
- 註)本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた。また、本研究は最先端・次世代研究開発支援プログラム「ネットいじめ研究の新展開—「行動する傍観者」を生み出すプログラム—」(代表:鈴木佳苗)の助成を受けている。